

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(平成27年6月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪市 港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 I - 1
- 2. 工事の実施状況 I - 2
- 3. 調査結果の概要 I - 3

II 事後調査結果

- 1. 陸域生態系（鳥類） II - 1

I 事後調査の概要

1. 調査概要

平成 27 年 6 月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1 に、調査地点の位置は図-1 に示すとおりである。

なお、「大阪湾新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく調査実施年度は平成 26 年度であるが、その補完調査として平成 27 年 5 月、6 月に実施している。

表-1 事後調査の概要（平成 27 年 6 月）

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）表-1

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 [a、b、c、d]	6月19日（※）	4回／年（2年おきに実施） （5月、6月、8月、2月）

※調査計画に基づく実施年度は平成26年度であるが、補完調査として平成27年5、6月に実施。

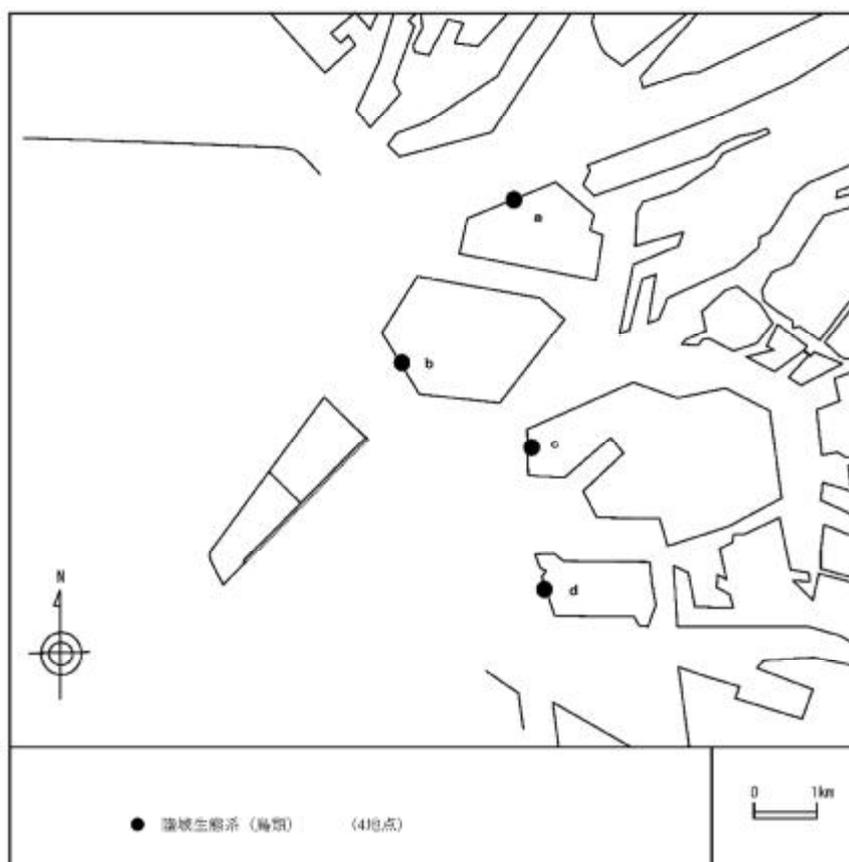
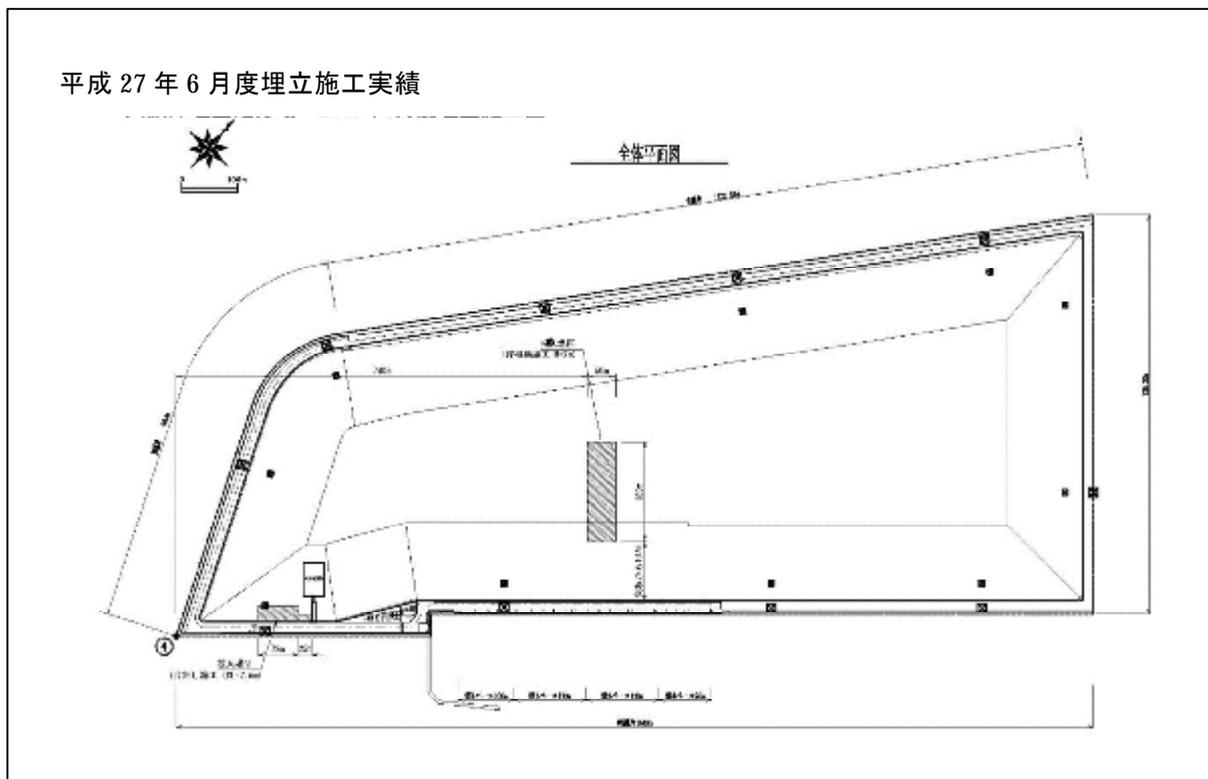


図-1 陸域生態系（鳥類）の調査地点（平成 27 年 6 月）

2. 工事の実施状況

平成 27 年 6 月の工事の実施状況は、図-2 に示すとおりである。

大阪沖処分場平面図



埋立量(m ³)	進捗率(%)
3,274,280	23.4

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図-2 工事の実施状況 (平成 27 年 6 月)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で8目18科31種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点**b**が最も多く437羽であり、次いで調査地点**d**の82羽、調査地点**a**の48羽、調査地点**c**の47羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点**b**が最も多く26種であり、次いで調査地点**c**の15種、調査地点**a**の10種、調査地点**d**の7種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点**b**における主要な出現種は、ツバメ（スズメ目ツバメ科）、コアジサシ（チドリ目カモメ科）、カルガモ（カモ目カモ科）、スズメ（スズメ目ハタオリドリ科）、カワウ（ペリカン目ウ科）であった。

事業実施前（平成10年6月：調査地点の位置は、平成26年度調査の調査地点に同じ）に実施した鳥類調査の結果は、4地点合計で9目19科26種であり、事業実施前と比べて多くの種類が確認された。

II 事後調查結果

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）[平成27年6月分]

調査日：平成27年6月19日

目	科	種	区分	地点別出現個体数				
				a	b	c	d	計
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥		6			6
ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	16	43	6	35	100
コウノトリ	サギ	ダイサギ	留鳥		5	5		10
		アオサギ	留鳥	2	3	6		11
カモ	カモ	カルガモ	留鳥	1	54	2		57
		オナガガモ	冬鳥		1			1
		ホシハジロ	冬鳥		20			20
		スズガモ	冬鳥		9			9
タカ	タカ	トビ	留鳥			1		1
チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		9			9
		シロチドリ	留鳥		8			8
	シギ	キアシシギ	旅鳥		2			2
		イソシギ	留鳥		4			4
		ソリハシシギ	旅鳥		1			1
		オオソリハシシギ	旅鳥		1			1
	カモメ	ユリカモメ	冬鳥（一部留鳥）		1			1
		ウミネコ	留鳥		1			1
		コアジサシ	夏鳥	7	62	4	9	82
ハト	ハト	ドバト	（移入種）		9			9
		キジバト	留鳥	2	1	1		4
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥		4			4
	ツバメ	ツバメ	夏鳥		126	5	7	138
	セキレイ	ハクセキレイ	留鳥		3		2	5
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	4		3	2	9
	ウグイス	オオヨシキリ	夏鳥		4			4
		セッカ	留鳥	3	6	1		10
	メジロ	メジロ	留鳥			2		2
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥	7	49	2	4	62
	ムクドリ	ムクドリ	留鳥	5		2		7
	カラス	ハシボソガラス	留鳥			3		3
		ハシブトガラス	留鳥	1	5	4	23	33
合計（8目18科31種）			目数	6	7	7	3	8
			科数	10	14	13	7	18
			種類数	10	26	15	7	31
			個体数	48	437	47	82	614

注) 1. 分類及び種の配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成26年度版生物リスト」(国土交通省、2015)に従った。
 2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」(財)日本野鳥の会大阪支部、2002)に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[平成27年6月分]

調査日：平成27年6月19日

区分		地点別出現個体数				
		a	b	c	d	計
出現 状況	目	6	7	7	3	8
	科	10	14	13	7	18
	種	10	26	15	7	31
出現個体数		48	437	47	82	614
主な出現種 (個体数、 組成比率)	カワウ (16羽、33.3%)	ツバメ (126羽、28.8%)	カワウ (6羽、12.8%)	カワウ (35羽、42.7%)	ツバメ (138羽、22.5%)	
	コアジサシ (7羽、14.6%)	コアジサシ (62羽、14.2%)	アオサギ (6羽、12.8%)	ハシブトガラス (23羽、28%)	カワウ (100羽、16.3%)	
	スズメ (7羽、14.6%)	カルガモ (54羽、12.4%)	ダイサギ (5羽、10.6%)	コアジサシ (9羽、11%)	コアジサシ (82羽、13.4%)	
	ムクドリ (5羽、10.4%)	スズメ (49羽、11.2%)	ツバメ (5羽、10.6%)	ツバメ (7羽、8.5%)	スズメ (62羽、10.1%)	
	ヒヨドリ (4羽、8.3%)	カワウ (43羽、9.8%)	コアジサシ (4羽、8.5%)	スズメ (4羽、4.9%)	カルガモ (57羽、9.3%)	
			ハシブトガラス (4羽、8.5%)			

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）[平成27年6月分]

調査日：平成27年6月19日

調査地点 a				調査地点 b			
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ	1	33.3	1	ツバメ	1	28.8
2	カモメ	1	14.6	2	カモ	4	19.2
2	ハタオリドリ	1	14.6	3	カモメ	3	14.6
4	ムクドリ	1	10.4	4	ハタオリドリ	1	11.2
5	ヒヨドリ	1	8.3	5	ウ	1	9.8
6	ウグイス	1	6.3	6	チドリ	2	3.9
7	サギ	1	4.2	7	ハト	2	2.3
7	ハト	1	4.2	7	ウグイス	2	2.3
9	カモ	1	2.1	9	サギ	2	1.8
9	カラス	1	2.1	9	シギ	4	1.8
				11	カイツブリ	1	1.4
				12	カラス	1	1.1
				13	ヒバリ	1	0.9
				14	セキレイ	1	0.7

調査地点 c				調査地点 d			
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	サギ	2	23.4	1	ウ	1	42.7
2	カラス	2	14.9	2	カラス	1	28.0
3	ウ	1	12.8	3	カモメ	1	11.0
4	ツバメ	1	10.6	4	ツバメ	1	8.5
5	カモメ	1	8.5	5	ハタオリドリ	1	4.9
6	ヒヨドリ	1	6.4	6	セキレイ	1	2.4
7	カモ	1	4.3	6	ヒヨドリ	1	2.4
7	メジロ	1	4.3				
7	ハタオリドリ	1	4.3				
7	ムクドリ	1	4.3				
11	タカ	1	2.1				
11	ハト	1	2.1				
11	ウグイス	1	2.1				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。